

平成 24 年度事業報告

(平成 24 年 4 月 1 日 ~ 平成 25 年 3 月 31 日)

【概況】

当法人は、昭和 39 年 1 月の創設以来、日本の文学・哲学・教育・美術等の各分野に多大な影響を与え、東洋の精神文化の基幹をなしてきた禅及び禅文化を、総合的に研究し、その成果を普及して、広く世界の人類文化に貢献する事業を展開してきた。

本年度も禅文化の普及に努め以下の活動を行なった。

調査研究活動では、中国禅宗史・禅語録研究班をはじめ各研究班が従来通りの研究を継続、成果としての刊行にむけての作業を進めている。マルチメディア研究班ではDVDビデオ発刊のほか、スマートフォンアプリ『京都禅寺巡り』のiPhone版を開発した。

資料収集・資料公開活動では、デジタルアーカイブスとして禅宗寺院が所蔵する文化財を電子データとして記録し保存する事業を本格化し、一般寺院所蔵の宝物のデジタルアーカイブ整備事業も進んでいる。

広報・普及活動では、研究会の成果として『景德伝灯録五』を刊行した。また、公開講演会や、様々なメディアを利用して禅文化の普及に努めた。

収益事業では、宗教法人管理システム「擔雪」の販売や、宗務所管理システムの機能追加への対応、受注のシステムとして、新規に相国寺資料目録DBの構築と納品を行なった。

共益事業では、臨黄合議所関連の業務（遠諱事業）及び大本山相国寺の委託業務を行なっている。

．禅文化普及事業（公益目的事業）

1 調査・研究活動

1．中国禅宗史・禅語録研究班

当法人は、設立以来語録研究班を組織し、禅文献のうち最重要とされる中国唐宋代の禅語録を継続して会読している。これらは禅の語録を、唐代・宋代の中国語の口語研究を踏まえ、語彙や文体の変遷と思想史の脈絡にしたがって読解してゆくものである。その成果は、唐宋の思想史解明に新たな観点を提供するものとなり、また、唐宋の口語研究に寄与するものとなる。

参加メンバーは仏教学、哲学、文学、中国語学などの研究者や学生、一般からの参加者などで構成され、学際的な雰囲気の中で研究が行なわれている。

唐代語録(『祖堂集』)研究会〔班長 西口芳男〕

『祖堂集』は『景德伝灯録』の編集に先立つこと 52 年、完存する禅宗灯史の書としては現存最古のものであり、現代の禅に直結する唐五代の禅の資料の古層をなすものとして貴重である。北宋初期の当時の最高の知識人の刊削裁定を経た『伝灯録』に比べて、野趣に富んだ生の資料を提供してくれるものであり、口語研究の資料としても、近年、とみに

注目を集めている。既に 40 年前、この研究班では、入矢義高・柳田聖山の指導のもとに読まれ、当時の原稿によって『訓注祖堂集』（国際禅学研究所報告第 8 冊、2003 年）として当時の成果が発表されている。今回は『祖堂集』を成立させた福州の雪峰教団の禅師をメインにして深く読み進め、『祖堂集』成立の背景を探ることを目的とする。

今年度は、巻十の長生和尚（全十則）、同・鵝湖和尚（全四則）、同・大普和尚（全三則）、同・鏡清和尚（全四十則の第十三則まで）を読了した。

研究会の開催日は、4/27、5/11、6/8、6/22、7/13、9/28、10/26、11/30、12/14、1/25、2/8、2/22、3/8。

班員：衣川賢次（花園大学教授）／中島志郎（花園大学教授）／川島常明（大通院住職）
廣田宗玄（花園大学非常勤講師・順心寺住職）／松岡由香子（花園大学非常勤講師）
千田宗琢（花園大学非常勤講師・正眼短期大学講師）／久保讓（花園大学科目等履修習生）
薛 耀祥（一指禅気功整体院）／古勝亮（京都大学大学院）／鈴木洋保（花園大学非常勤講師）
／鈴木史己（京都大学博士後期課程）／李薇（花園大学大学院）／オズヴァルド・メルクーリ（花園大学大学院）
／土屋昌明（専修大学教授）／小川太龍（花園大学非常勤講師・常楽寺）
／橋本和雄（国際禅学研究所研究員）／小宮山祥広（仏楽学舎）

「神会語録」研究会〔班長 西口芳男〕

敦煌写本禅宗文献の中で最も重要なものの一つに神会関係のものがある。神会の語録の校訂本には、つとに、胡適氏、鈴木大拙氏のものがあるが、敦煌博物館本やいくつかの断片写本が出揃うと、従来の校定には限界のあることがわかり、新たな定本、正確な訳文、詳細な注釈の作成が待たれていた。本会ではこの点を重視した読解を進めてゆく。

今年度は、『景德伝灯録』第五冊出版に集中したため、休会とした。

班員：衣川賢次（花園大学教授）／中島志郎（花園大学教授）／北畠利信（花園大学非常勤講師）
／松岡由香子（花園大学非常勤講師）／千田宗琢（花園大学非常勤講師・正眼短期大学講師）
／久保讓（花園大学科目等履修習生）

「景德伝灯録」研究会〔班長 西口芳男〕

禅語録中、最も基本的かつ重要な文献である『伝灯録』全 30 巻を、近年の日中両国の中国口語史研究の成果を踏まえて、千八百の古則公案といわれる問答の一つ一つの意味を解明することに重点を置き読解を進めている。

平成 24 年度は、巻 13～15 をまとめた研究成果として『景德伝灯録 五』を禅文化研究所より発行した。巻 16 は前年に引き続いて、太原海湖和尚、嘉州白水寺和尚、潭州大光山居誨禅師、楽普元安禅師（途中）の定稿化を進めた。

研究会の開催日は、6/3、9/1、1/6、3/31。

班員：衣川賢次（花園大学教授）／松岡由香子（花園大学非常勤講師）／千田宗琢（花園大学非常勤講師）
／久保讓（花園大学科目等履修習生）／三浦國雄（大東文化大学教授）／土屋昌明（専修大学教授）
／下定雅弘（岡山大学教授・北京事務所長）／末木文美士（国際日本文化研究センター教授）
／齊藤智寛（東北大学準教授）／石野幹昌（名古屋大学大学院博士課程）
／石井修道（駒澤大学教授）
／小川隆（駒澤大学教授）
／須山長治（駒澤大学非常勤講師）
／オズヴァルド・メルクーリ（花園大学大学院）
／モリー・ヴァラー（スタンフォード大学、国際日本文化研究センター研究生）
／中木 愛（龍谷大学専任講師）

宋代禅語録勉強会〔幹事 藤田琢司〕

僧俗を問わず語録を読む楽しさを知ってもらうため、古来の禅僧や高德の大夫等の逸話

を集めた『林間録』をテキストに会読を進める。今年度も引続き巻下を読み進めた。開催日は、4/25、5/21、6/18、7/25、9/3、10/15、11/13、12/10、1/28、2/25、3/18。

参加者 能仁晃道 / 道前宗閑 / 佐野泰典 / 児嶋文憲 / 五十部泰至 / 山田宗正 / 井本宗浩

2. 禅宗經典研究班

禅文献に関わる經典類のうち、これまで未開のものについて独自の研究を進めると共に、臨濟宗で常用される經典についても、現代に即した内容や形態は何かを究明し、一般に普及する方策を考える。

「楞伽經」研究会〔班長 常盤義伸（花園大学名誉教授）〕

禅文献と深い関わりをもつ『楞伽經』研究は、学界の未開分野とも言われ、長い間、十全な研究がなされてこなかったが、常盤義伸教授は、『楞伽經』四巻本を基に、南条文雄博士校訂梵文を再構成し、世界で初めて完全英訳・和訳を成し遂げた。

本研究会は、常盤義伸著『楞伽宝經四巻本の研究』をテキストとして、梵本と求那跋陀羅三蔵の漢訳本を対比しながら巻二を終え、巻三を読み進めている。

研究会の開催日は、4/23、5/28、6/25、7/23、9/24、10/22、11/26、12/17、1/28、2/25、3/25。
班員：西口芳男（禅文化研究所） / 小嶋孝（東洋大学大学院哲学専攻・仏教学専攻博士前期課程終了） / 種村辰男（塾講師、FAS協会会員） / 水野和彦（花園大学大学院博士課程） / 李薇（花園大学大学院） / 李忠煥（花園大学大学院）

臨濟宗經典研究〔班長 西村惠学〕

現代の臨濟宗で常用されている經典について、その声明や經本を中心に整理し、現代人に受け入れやすいものを考え、一般に普及するような方策を考慮して制作する。平成24年度は既刊の『諸回向清規式抄』の内容を再確認して重版した。

3. 哲学研究班〔幹事 森 哲郎〕

平成24年度も、「大蔵会」としての仏典研究会を年4回開催し、「華嚴五教書」の講読研究をついに完了した(平成24年2月24日)。

次回5月19日より、新たな仏典研究会として、世親の『唯識三十頌』の講読研究を上田閑照先生のご指導のもと開催する運びになっている。

なお同じく上田先生のご指導のもと、西田哲学研究会と西谷研究会も各通年4回の頻度で継続している。西田哲学研究会では、『自覚に於ける直観と反省』を終え、『意識の問題』に入るところであり、西谷研究会では「寒山詩」と「詩偈」を終え、「般若と理性」の解読、同時に夢窓国師の『夢中問答』の講読も同時に行う運びになっている。

4. 日本禅宗史・禅語録研究班

日本の伝統教団を形成した祖師たちの伝記や語録を体系的に整備し、現代的に解釈することを目的とする。班員は所員を中心としたメンバーで構成する。

明庵栄西研究〔担当 藤田琢司〕

日本臨濟宗の祖師である栄西禅師の著作の所在調査と収集作業を行ない、総合的な資料集として刊行する。今年度は、他宗派および図書館等の所蔵の未刊行史料を中心として収集および調査研究・翻刻作業などを行ない、研究成果の刊行に向けてまとめ始めた。

『寂室語録』研究〔担当 能仁晃道〕

永源寺開山寂室元光の語録の解説および訓注・刊行を行なう。『永源開山寂室和尚語録』は南北朝期の漢詩文学の様相を伺うに足る希有な史料であるが、従来本格的な検討がなされたことがなかった。これまで、天台学・禅学双方に造詣の深い天台宗智教寺住職佐々木陵西師が中心となって作成作業を行ってきたが、本人が病氣長期療養に迫られたため、能仁晃道が後任となり研究を進めている。

『延宝伝灯録』研究〔担当 阿部理恵〕

日本の禅僧・居士ら約千人の伝記を、元師蛸が撰述した『延宝伝灯録』の訓注作業を行なう。本書は江戸時代までの日本禅僧の伝記の集大成として位置づけることができるが、歴史学の成果に加えて難解な禅語の知識が不可欠であったため、従来訓読等が刊行されたことはなかった。現在、全文を読み下し文とし、注釈を付す作業を継続中である。

『白隠』研究〔担当 芳澤勝弘〕

白隠禅師の語録『荊叢毒蘂』の訓読文および現代語訳、事項注釈について継続検討を行った。

5. マルチメディア研究班〔班長 西村恵学〕

印刷物をはじめ、音声、映像、ホームページなど、多様なメディアを通して現代人に禅をわかりやすく伝える方策を研究する。平成 24 年度には、書籍刊行物やDVDビデオ発刊のほかに、スマートフォンアプリ『京都禅寺巡り』のiPhone版を追加開発し、京都の禅寺院 80ヶ寺を紹介し所蔵される宝物や伽藍の解説をした。前年度に制作した「正しい坐禅の組み方」と組み合わせたパンフレットを再編成して作成し、寺院や市内のホテルなどで拝観観光客に配布した。

また、禅文化研究所のホームページの英語版の作成にあたった。

2 資料収集・資料公開活動

1. デジタルアーカイブス

禅の文化として大切に遺されてきた書画を中心としたアーカイブを、劣化しないデジタルデータとして保存していくことを目的とする事業。一応のデータ収集までに概ね7年を目途として活動していく。

将来的には、以下のような事業を通して蓄積した画像と資料に基づいて、「禅文化財WEB博物館」(仮称)を制作し、国内外にバーチャル博物館として、禅の文化財を紹介していく事業として展開したい。

「禅の至宝」(文化財目録整備事業)

各派本山や、文化財を多数所蔵する由緒寺院の宝物を、保存性や再現性に優れた電子データで記録し利用するための「デジタルアーカイブ 禅の至宝」を、23年度から運用開始。協力の得られた寺院に撮影に出向くなどして、絵画・墨蹟類を中心にデジタル写真に撮影しデータベースに保存する。また同時に、専門分野の学芸員に依頼してそれらデータの目録情報を入力していく。平成 24 年度には、岐阜県八百津町の大仙寺の所蔵品の調査を行った。

またシステムをおくサーバーの移転にともなって、新たにみつかった不具合を洗い出し

修正を行なった。

一般寺院什物データベース

に該当しない一般寺院所蔵の宝物のデジタルアーカイブ整備事業として、簡易なデータベースを内部で開発構築し、当該寺院に絵画・墨蹟類などのデジタル写真での撮影と目録のデータベース化を推奨し、理解を得られた寺院のデータ入力を順次行なっていく。本年度に八百津の大仙寺、甲斐の恵林寺での導入が決定した。

2. 資料の収集・整理・公開

資料室所蔵品の整理・公開(利用)

当法人がこれまで収集してきた 37,000 点にのぼる文献資料のうち、未整理分を当研究所で開発した資料管理ソフトを用いて順次入力した。オンライン蔵書検索への対応も検討中。蔵書には、他の図書館や資料館にはない貴重なものが含まれており、これらの閲覧も、従来通り内外の研究者や禅に関心のある一般人に無料で開放した。今年度の購入冊数 3 冊。

WEB版所蔵墨蹟展

当法人が所蔵する書画を、ホームページ上でバーチャル墨蹟展として随時公開した。

禅文化研究所墨蹟曝涼展

禅宗寺院及び当法人が所蔵する書画を一般公開し、美術に関する講演を行なう墨蹟展を花園大学歴史博物館と共同で開催する。平成 24 年 10 月 1 日から 12 月 15 日に、花園大学歴史博物館と共催で、「東嶺圓慈 禅画と墨蹟」展を開催し、1046 名の入場者数を数えた。

また、この展覧会の図録は花園大学歴史博物館から発行されたが、その作成協力を行なった。

黒豆データベース公開事業

当法人がこれまで電子テキスト化してきた禅宗文献のうち、訓注本として発刊してきたものの原文データベースを、簡易検索システムと共にホームページ上で一般に無償公開中で、随時、データファイルを追加する。但し、今年度の追加登録はなし。

問い合わせに関する回答

資料の出典や解説等について、寺院・団体・個人を問わず様々な問い合わせが数多く寄せられる。それらの回答に無料で応じた。文書で行なった回答には以下のような質問が寄せられた。

沢庵が正隠宗知に送った手紙の解説(個人) / 伝雪村周継筆「蕪図」の翻刻、読み下しについて(個人) / 大徳寺塔頭興臨院の過去帳「興臨院月中須知簿」(個人) / 臨済宗の得度式の作法について(東映京都撮影所) / 天龍寺錫源和尚とは誰か(別子銅山記念館) / 愛媛県松山市(旧北条市)八反地の宗昌寺の開山について(愛媛県歴史文化博物館) / 廬山煙雨浙江潮」の出典について(個人) / 春見老師の関防印の解説依頼(個人) / 臨済四喝について(テレビ東京) / 大蟲全岑の伝記史料について(個人) / 入唐僧慧萼に関する論文の出典(個人) / 「鼈鼻蛇」の読み(寺院) / 狩野了海について(寺院) / 川嶋昭隠老師について(寺院) / 大蟲全岑の伝記史料について(個人) / 「茶の十徳」という言葉について(個人) / ほか、墨蹟の読みなど 40 件。その他電話による回答多数。

3. Wikipedia のデータ修正・登録事業

インターネット上の電子辞書サイト(Wikipedia)の、禅や禅文化に係る部分を見直し、データの修正や新規登録などを行なった。

3 広報・普及活動

1. 季刊『禅文化』の刊行

季刊『禅文化』は、禅の思想と生活及び文化・美術などに興味を持つ読者のための教養誌として刊行を続けている。今年度は、224号～227号を発行した。主な配布先は寺院、一般、花園大学後援会など。購読会員数 3,125名。

2. 研究成果の刊行

中国禅宗史・禅語録研究班の成果

『景德伝灯録 五』 景德伝灯録研究会編 (平成 25 年 2 月刊行)
初版 500 部 灯史の最基本書である「景德伝灯録」の初の訓注。シリーズ第 3 冊。
【重版】 『臨濟録』 2 版 3 刷

日本禅宗史・禅語録研究班の成果

『大愚和尚語録・拾遺・行実』 能仁晃道 (平成 24 年 7 月刊行)
初版 500 部 江戸前期の高僧、大愚宗築禅師の語録訓注。語句索引付き。
『栄西の道』 宮脇隆平 (平成 25 年 3 月刊行)
初版 1500 部 国内だけでなく中国本土にも到る栄西禅師の足跡を辿る。
【重版】 『夜船閑話』 4 刷 1000 部、『江湖風月集』 復刊 1 刷 200 部
『新修禅家書鑑』 3 刷 500 部、『諸回向清規式抄』 復刊 1 刷 100 部

マルチメディア研究班の成果

2013 年禅語カレンダー 画賛・遂翁元廬 (平成 24 年 9 月刊行)
初版 50,000 部 禅のこころを生かしたミニ・カレンダー。
DVD「精一杯生きよう」 円覚寺派管長・横田南嶺老師
初版 3,000 部 DVD 禅僧が語るシリーズの第 9 弾。 (平成 24 年 7 月刊行)
スマホアプリ『京都禅寺巡り』 iPhone 版リリース、新リーフレットの制作と配布。

3. 公開講義「禅思想の諸問題」 [講師 西村恵信(所長・花園大学名誉教授)]

所長による講義で、『増註 證道歌直截』二巻二冊(萬回一線撰)をテキストに一般社会人を対象に禅の基本思想を平易に教える。毎週火曜日開催を原則とし、今年度は 40 回開催した。平均 20 名参加。

4. ホームページの運営とコンテンツの充実

禅文化研究所ホームページの運営とコンテンツの充実

昨年度全面リニューアルを行なったホームページのコンテンツ更新を行なった。また、英文版のページを公開。

臨黄寺院ネットワークの運用協力

臨濟禅を世界に発信する公式サイトである臨黄ネットの情報更新及びコンテンツ制作を行なう。本年度は、臨黄ネットホームページのリニューアルのため、2月から作業を開始した。新年度 4 月に公開。

5．禅検定

禅思想やその歴史・文化に興味をもち学びたいと考える一般人に対して、基本的な事項を知るための教科書となるようなテキスト制作を検討推進し刊行するとともに、近い将来には社会的流行となっている検定形式をとった「禅検定」という検定試験を実施し、試験レベルに応じた「級」を認定していく。本年度は運営方法の検討のみにおわった。

6．公開講演会等

公開講演会

花園大学と合同で専門道場師家を講師に一般を対象にした講演会を行なった。また、『東嶺圓慈』展の記念講演会として、下記の2回の講演会を実施した。

2012年10月5日(金) 13:30～14:30

「東嶺禅師『宗門無盡燈論』に学ぶ」横田南嶺老師(円覚寺派管長)

2012年12月6日(木) 13:30～14:30

「東嶺圓慈墨蹟に流れるもの」丸山猶計氏(九州国立博物館主任研究員)

第10回 禅と文化の旅 平成12年11月30日

禅の教えと文化に触れる1日バスツアー。岐阜県多治見市の永保寺と岐阜県現代陶芸美術館を訪問した。

教化・運営の実践講座

平成25年度に寺院の教化活動や運営などに役立つ実践的なセミナーを年4回開講するための計画をたて講師への依頼を行なった。具体的には25年度に決定する。

7．広報・普及

研究成果としての刊行物を、各種媒体を通して広報し、直販、寺院売店、書店の各ルートを通じて普及促進した。また、ブログ禅、メールマガジンの発行、あるいはTwitterやFacebookなどを利用して、より広範囲に普及した。今年度は一般向けの新刊点数が少なかったことから書店への積極的な営業活動ができなかった。

現在、売店等で頒布を依頼している本山・寺院は以下の通り(業者委託分含む)。
妙心寺(花園会館) / 建長寺 / 方広寺 / 永源寺 / 天龍寺 / 相国寺(承天閣美術館) / 建仁寺 / 佛通寺 / 龍安寺(妙心) / 鹿苑寺(相国) / 慈照寺(相国) / 高台寺(建仁) / 酬恩庵(大徳) / 龍潭寺(妙心) / 東慶寺(円覚)

・収益・共益等事業

1 ソフト開発・販売等事業

1. 宗教法人管理システム「擔雪」の販売

「財務管理」「法務管理」「会費管理」「寄付金管理」の各システムを発売中。宗門を中心に仏教諸宗への販売促進。DM（ダイレクトメール）やネット上のアドワーズ広告等を行なった。最新の Windows 8 にも既に対応済み。また、擔雪の開発検討に入った。

2. オーダー型宗務所管理システムの構築

妙心寺派布教師会管理システムの構築

平成 24 年 2 月に納品を完了した。保守契約を締結し、システム保守を行なった。

相国寺資料目録DBの構築

共益事業で受託している相国寺資料の整理に伴い、整理した資料のデータベースを構築しているが、その資料を閲覧するためのシステムを受注し、制作を完了した。納品時期を打ち合わせ中。

南禅寺派管理システムの機能追加

システムの追加要望に対応し完了した。

建長寺派管理システムの機能追加と運用サポート

システムの機能追加要望に対応し、平成 25 年度に必要とされる改変の作業を行なった。作業継続中。

曹洞宗宗務所管理システムの運用サポート

保守契約によるシステム保守を行なった。

天龍寺派管理システムの運用サポート

末寺管理等のシステムの運用をサポートした。

佛通寺派管理システムの開発打ち合わせ

末寺管理等のシステム開発について打診があり、打ち合わせの結果、平成 25 年 6 月に納品予定で開発をすることになった。

3. 宝物管理システム「禅の至宝」Windows 版の開発

一般寺院がデジタルアーカイブデータを管理するための宝物管理システム「禅の至宝」Windows 版の開発を行ないほぼ完了した。販売は平成 25 年度以降にはじめる。

4. 蔵書管理システムの開発

寺院等で所蔵される大量の書籍を管理するためのデータベースシステムの開発を行ない完了。すでに天龍寺国際宗教哲学研究所に導入され、他にも数ヶ寺が導入検討中。

5. 出版物頒布

他社から委託を受けた禅に関する出版物をホームページやDMなどで案内し頒布した。主な取扱い品：「日本の心 日暦」・「茶禅一如 日暦」・「龍図色紙」（千真工芸）「送喪儀」・「禅聖典」（連合各派布教師会）「白隠禅画墨蹟」（二玄社）「英訳宗門葛藤集」・「英訳夢中間答」（天龍寺国際禅学研究所）「禅学大辞典」（大修館書店）「禅画に込めたメッセー

ジ 白隠展図録」(Bunkamura) 「白隠 - 衆生本来仏なり - 」(別冊太陽 日本のこころ)、
「いろはにほへと - ある日の法話より - 」(黄梅院) 等

2 共益事業

1 . 大本山相国寺所蔵資料の整理等

相国寺寺史編纂事業の補佐

現在、相国寺においては、寺史編纂事業が行なわれており、主に近世から近現代に位置付けられる史料類の調査・研究の補佐を行なった。

大本山相国寺所蔵資料の整理・管理

前年度に引続き、承天閣美術館管轄の図書資料類の整理・管理を行なった。

2 . 寺院委託出版

『金山明昶和尚語録』(兵庫県豊岡市極楽寺発行 / 平成 24 年 11 月)

『「動作」でわかる』(福聚寺住職河野文光著 / 平成 25 年 3 月)

3 . 引導法語データベースの公開

妙心寺派教学部と共同で制作した引導法語データベースについて、適宜、訓注の適用を行ない、データベースの補完のための初期入力をした。現在の登録済み数 287 法語。

4 . 臨黄合議所事務局

年間会議

平成 24 年 4 月 12 日 (木) 理事会 (大徳寺派宗務本所)

平成 24 年 9 月 6 日 (木) 理事会 (大徳寺派宗務本所)

平成 24 年 10 月 25 日 (木) 移動理事会 (総会)(大本山向嶽寺)

平成 25 年 1 月 22 日 (火) 理事会 (新・都ホテル)

平成 24 年 7 月 27 日 (金) 教学部長会 (花園大学教堂)

平成 24 年 11 月 8 日 (木) 教学部長会 (花園大学教堂)

平成 25 年 1 月 24 日 (木) 教学部長会 (花園大学教堂)

「臨黄会報」の発行 37 号・38 号)

臨濟禅師 1150 年・白隠禅師 250 年遠諱事業の推進

各専門部会の開催とポスターの制作・配布等を行なった。

臨黄互助会の促進

中国仏教界との交流 (日中臨黄友好交流協会)

第 9 回臨黄教化研究会の実施 (平成 25 年 2 月 7 日・8 日)

会議等の事務処理